

第二十三軍追及輸送 日錦丸の被害



日錦丸 乗船部隊

輸送

本船に乗船した部隊は香港に展開している第二十三軍への補充兵である。

乗船した要員は第二十三軍が6月に開始した湘桂第一期作戦（広東作戦）に次ぐ第二期作戦（揚州）を7月から開始するに当たり追及するためであった。門司を昭和19年6月22日に出港した本船の予定航路は一路西に向かい上海（呉淞）へ、さらに上海から台湾・高雄を経由して香港に到達する予定であった。しかし東シナ海には米潜水艦が多数配置されていたことや日本海軍が敷設した機雷を避けることを目的に、濟州島の北海峡を通過し朝鮮半島西岸を北上、その後黄海を横切り青島南方で南下、上海に向かおうとしたことが考えられる。また日産汽船社史によれば本船には2人の船長が乗船していたことから重要な輸送であったこともうかがえる。また、この輸送計画は陸海軍協同で立案し実行の協定ができています。護衛については、門司から濟州島・朝鮮西岸は海軍の鎮海警備府が担当であり、艦艇による護衛は行われず、航空機による護衛であったと思われる。本船が攻撃を受けた時間帯は夜間のため、航空機の護衛が終わった後であった。

戦史叢書 中国方面海軍作戦<3>

乗船部隊

第二十三軍（波）

第二十三軍司令部

電信第十四連隊、南支那防疫給水部 計369名

第百三十師団（鍾馗）【京都】・独立混成第二十三旅団（純）【台湾】

歩兵隊、砲兵隊、工兵隊、通信隊 計549名

第十一軍

独立混成第二十二旅団（節）【佐倉】、独立混成第二十二旅団砲兵通信隊、広東12陸軍病院

計627名

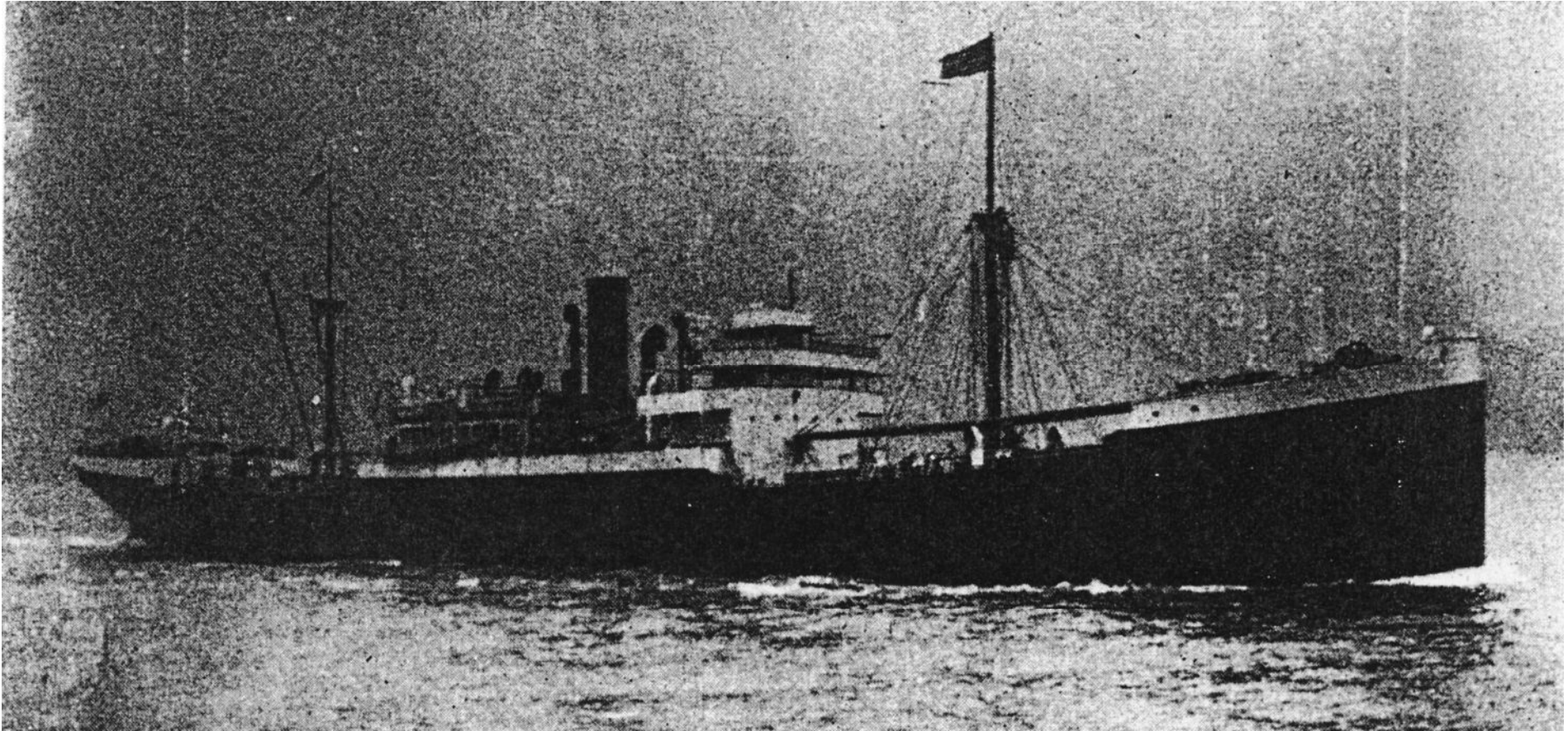
第二十軍

第六十八師団（檜）【大阪】、歩兵第五十八旅団【和歌山】

師団工兵隊、師団通信隊、師団輜重隊、野戦病院、病馬廠 計626名

第二独立鉄道工作隊 4名

輸送指揮官 加藤幸夫 陸軍大尉

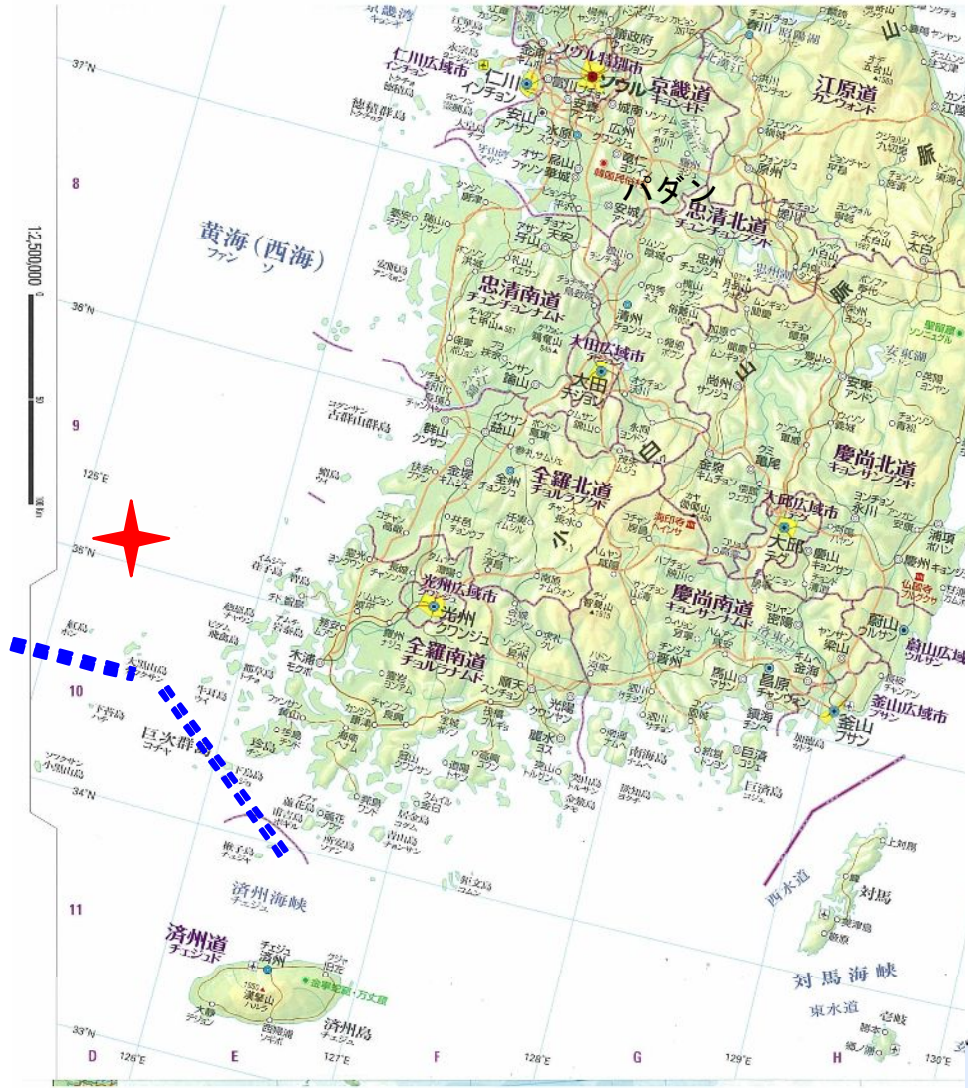


日錦丸 日産汽船 5,705総トン

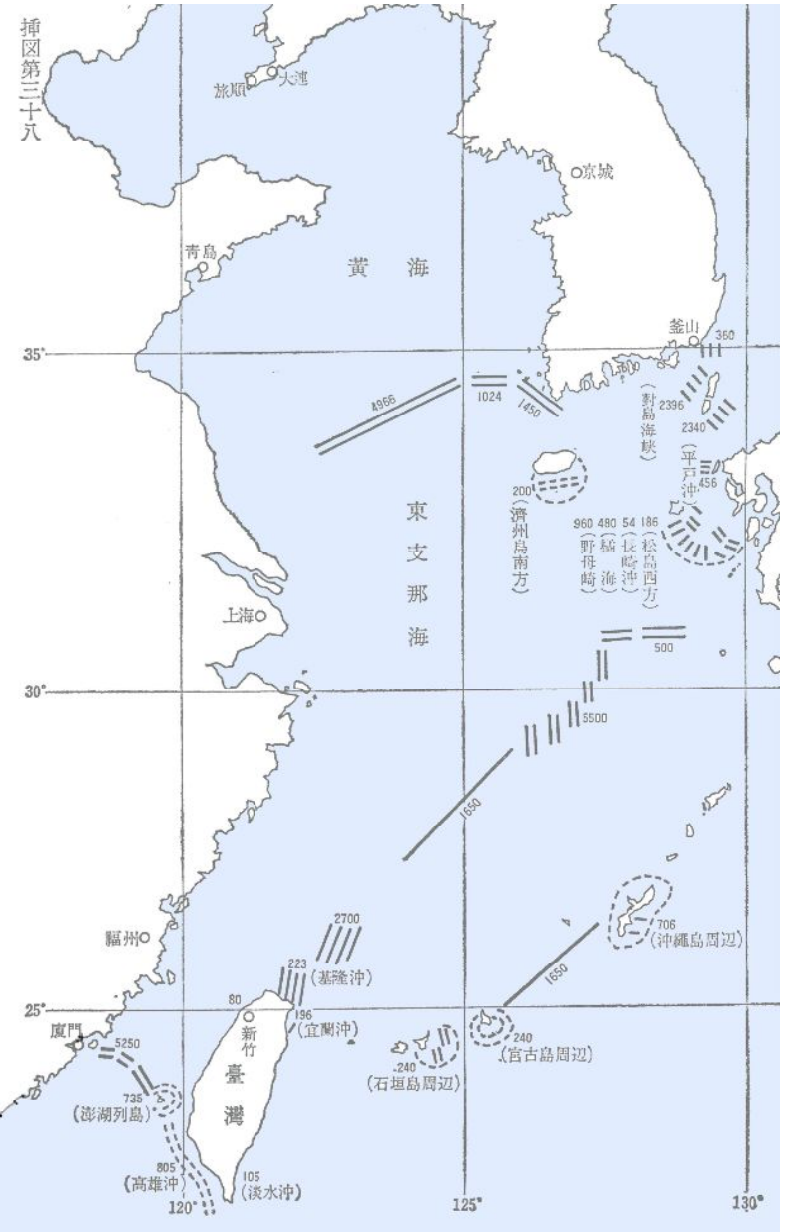
昭和19年9月22日門司を上海（呉淞）にむけ出港。29日に北緯35度05分、東経125度00分付近において米潜水艦Tang (SS-306)の魚雷攻撃を受け被雷、30日0205頃朝鮮半島全羅南道紅島北20マイル付近で沈没。

乗船していた将兵3,400名中3,150名、船員69名 合計3,219名戦死。

Submarine *Tang* (SS-306) sinks Japanese merchant cargo ship *Nikkin Maru* in the Yellow Sea off Mokpo, Korea, 35° 05' N, 125° 00' E



日錦丸 沈没位置 朝鮮半島全羅南道 紅島北20マイル



旧日本海軍機雷敷設図
昭和19年1月～6月にかけて敷設
戦史叢書中国方面海軍作戦<3>